

岡山醫學會雜誌第42年第8號(第487號)

昭和5年8月31日發行

OKAYAMA-IGAKKAI-ZASSHI

Jg. 42, Nr. 8 (Nr. 487), August 1930

原 著

616.5

皮膚結核ノ統計的觀察

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室(主任皆見教授)

醫學士 檜垣律夫

目 次

I 緒 言	第4節 年齡別
II 統 計	第5節 病竈發生部位
第1節 年度別, 男女別, 診斷別	第6節 Pirquet 氏反應
第2節 症例數	第7節 合併症
第3節 性	III 總 括

I 緒 言

從來我が國ニ於ケル皮膚結核ハ外國ノソレニ比シ比較的稀有ナルモノト見做サレタルガ大正14年小池正晃氏ノ各地大學ノ統計, 其ノ他最近2, 3ノ統計ヲ見ルモ我が教室最近5箇年間ノ皮膚結核患者ニ就キテ見ルモ本疾患ハ我が國ニテモ, シカク稀有ナルモノニハ非ザルベク, 殊ニ逐年皮膚結核患者ハ増加ノ傾向ニアルモノノ如シ。

我が教室ニ於ケル大正14年以前ノ皮膚結核統計ハ大道氏ニヨリ行ハレタルヲ以テ, 余ハ大正14年1月以降昭和4年末日迄, 滿5箇年間ニ我が教室ヲ訪レタル皮膚結核患者(所謂結核疹モ含ム)ノ統計ヲ行ヒ, 2, 3統計的觀察ヲナスベシ。但シ紅斑性狼瘡等ハ之ニ加ヘズ。

II 統 計

第 1 節 年度別, 男女別, 診斷別

大正14年1月ヨリ昭和4年12月迄滿5箇年間ニ我ガ教室皮膚科外來ヲ訪レタル外來患者總數(泌尿器科患者ヲ除ク)ハ10277人ニシテ, 其ノ中皮膚結核患者ハ75人ナリ, 即チ皮膚結核患者ハ外來患者總數ニ對シ約0.73%ニ相當ス. 之ヲ年度別, 男女別, 診斷別ニ細別表示スレバ次ノ如シ.

第 1 表 各年度ニ於ケル統計

年 度 別	皮膚科外來新患者總數	性	尋常性狼瘡	皮膚疣狀結核	潰瘍性粟粒結核	皮膚腺病	腺病性苔癬	Bazin氏硬結性紅斑	壞疽性丘疹狀結核疹	顔面播種性粒瘡	陰莖結核疹	結核性關節炎	計
大 正 14 年	2069	♂ ♀	2		1	1	1	3	1			2	1) 10)11
大 正 15 年 (昭和元年)	1984	♂ ♀		1		1 1		7	2	1 2	2	1	6) 12)18
昭 和 2 年	2112	♂ ♀	1	2 1		1 1		1	1 2	1 1		1	7) 6)13
昭 和 3 年	1933	♂ ♀		2		1	1	2	2 2	1	1		7) 5)12
昭 和 4 年	2179	♂ ♀		2		1 1	1	4	1 2	4	4	1	13) 8)21
計		♂ ♀	3	7 1	1	4 4	2 1	1 16	4 9	6 4	7	3 2	34 41
總 計	10277		3	8	1	8	3	17	13	10	7	5	75

表中同一患者ニテ數上ノ諸疾患ヲ2ツ以上合併セルモノニアリテハ各々其ノ疾患中ニ計算セリ.

皮膚結核各疾患ニ就キ症例數, 男女別, 年齡別, 病竈發生部位, Pirquet氏反應, 合併症等ニ關シ詳細觀察考究スベキモ, 全疾患ヲ通ジテ僅ニ75例ニシテ確定的ノ事ヲ云ハレザルハ勿論ナルヲ以テ, 2, 3他ノ統計ヲモ比較参照シテ考察スベシ.

第 2 節 症 例 數

Bazin氏硬結性紅斑ハ75例中17例ニシテ皮膚結核中最モ屢々來ル疾患ノ1ツナリ. 壞疽性丘疹狀結核疹ハ13例ニシテ之ニ次ギ, 此兩疾患ハ同一患者ニ併發セルモノ多數アリテ, 發生部位モ下肢ニ於テハ略ボ一致シ, 症狀亦相似タルモノアリテ臨牀上鑑別困難ナルモノアルハ勿論時ニハ組織的ニモ其ノ判別鑑定困難ナルモノアリ. コノ點ニ關シテハ追テ詳細考究發表スル所アルベシ. 小池氏ハ大正11年ヨリ大正14年ニ至ル3—4年間ノ各地大學皮膚結核ノ統計竝ニ觀察ヲ行ヒタルガ, 皮膚結核840例中Bazin氏硬結性紅斑ハ16.09%ニ相當シ, 壞疽性丘疹狀結核疹ハ10.59%ニ當リ, 尋常性狼瘡, 皮膚疣狀結核, 皮膚腺病等ト共ニ皮膚結核中比較的多發

スル疾患ナルコトヲ云ヘリ。山川氏ハ京都帝大皮膚科教室 17 年間ノ結核性皮膚疾患ノ統計ヲ行ヒタルガ Bazin 氏硬結性紅斑、壞疽性丘疹狀結核疹ハ尋常性狼瘡ト共ニ皮膚結核諸疾患中最モ多數アルモノナルコトヲ云ヘリ。

顔面播種狀粟粒性狼瘡ハ 10 例ニシテ皮膚疣狀結核、皮膚腺病ハ共ニ 8 例ナリ。小池氏ノ統計ニヨレバ皮膚腺病ハ 16.22%，皮膚疣狀結核ハ 16.09% ニシテ、顔面播種狀粟粒性狼瘡ハ 6.74% ナルヲ見タリ。余ノ統計ハ第 1 表ニ示ス如ク陰莖結核疹 7 例、結核性結節性靜脈炎 5 例、尋常性狼瘡 3 例、潰瘍性粟粒性結核 1 例ノ順トナリタリ。

第 3 節 性 別

結核性皮膚疾患ト男女別トノ關係ニ就キテ觀ルニ第 1 表ニ示ス如ク、尋常性狼瘡ハ僅ニ 3 例ニシテ統計的ニ確タルコト云ハレザルハ勿論ナルガ、3 例ハ總テ女性ニシテ本症ハ女性ニ多キ疾患ナルヲ裏書キスルモノナリ。小池氏ノ尋常性狼瘡 159 例ニ就テ見ルモ其ノ 96 例ハ女性ニシテ女性多ク、山川氏モ亦女性ニ多キヲ云ヘリ。Bazin 氏硬結性約斑ハ 17 例中 16 例女性ニシテ本症ハ殊ニ女性ニ好發スル疾患ナリ。井尻、小池、山川氏等ノ統計ニヨルモ總テ女性ニ多キ疾患ナルコトヲ述ベタリ。壞疽性丘疹狀結核疹 13 例中女性ハ 9 例ナリ。比較的女性ニ多キヲ思ハシムルモノアルモ、小池氏、山川氏ノ統計ニテハ男性ニ多シ。

男性ニ多キ皮膚結核ハ皮膚疣狀結核ニシテ 9 例中 1 例ノミ女性ニ發生セリ。井尻、小池、山川氏亦男性ハ女性ノ 2 倍以上多キコトヲ述ベタリ。尙ホ男性ニハ陰莖結核疹ノ如ク男性ニノミ特有ナル皮膚結核疹アリ。

其ノ他ノ皮膚結核ニアリテハ男女略ボ同數ニ發生シ、特ニ男性又ハ女性ニ偏シテ多キヲ認メズ。

第 4 節 年 齡 別

各種皮膚結核 75 例中、年齢ノ記載ナキモノ 1 例アリ。74 例ニ就キ診斷別、年齢別ニ表示スレバ次ノ如シ。

第 2 表 年 齡 別

年 齡	診 斷 性	尋常性 狼 瘡	皮膚疣 狀結核	潰瘍性 粟粒 結核	皮膚 腺病	腺病性 苔 癬	Bazin 氏硬結 性紅斑	壞疽性 丘疹狀 結核疹	顔面播 種狀粟 粒性狼 瘡	陰 莖 結核疹	結核性 結節性 靜脈炎	計	總計
1—10	♂ ♀	1			2	1						2 2	4
11—20	♂ ♀		3 1		1 1	1	3	3	2	1	1	8 9	17
21—30	♂ ♀	1		1	1	1	7	2 2	3 3	2	2	10 15	25
31—40	♂ ♀		3				5	2 3	1	2	1	8 9	17
41—50	♂ ♀	1	1		1		1		1			1 4	5
51—60	♂ ♀				1		1			2		3 1	4
61—70	♂ ♀							1			1	1 1	2
計	♂ ♀	3	7 1	1	3 4	2 1	1 16	4 9	6 4	7	3 2	33 41	74

上表ニ就イテ觀ルニ皮膚結核全般トシテハ、年齢21—30歳ノ間ニ最も多ク、74例中25例即チ33.7%ニ相當ス。次イデ11—20歳及ビ31—40歳ノ間ニ多クシテ共ニ17例22.8%ナリ。10歳以下、41歳以上ニテハ大イニ減少シ、皮膚結核ハ11—40歳ニ最も多キ疾患ナルコトヲ認ムルモノナリ。

尙ホ各疾患ニ就イテハ余ノ統計ハ症例少數ナルヲ以テ他ノ2, 3統計ト對比シツツ考察スル所アルベシ。尋常性狼瘡ニ就イテハ僅ニ3例(7歳, 30歳, 50歳)ヲ得タルノミニテ勿論統計ノ價値ナキモノノ如シ。山川氏ハ本疾患105例中11—30歳ニ65例(61.9%)ナルヲ見。本疾患發生年齢ハ皮膚結核全般ノ如ク11—40歳ニ最も多ク、而モ幼年ヨリ高年ニ至ルマデ各年代ヲ通ジテ發生スルモノナルコトヲ云ヘリ。

皮膚疣狀結核8例ニ就イテ見ルニ何レモ11—40歳ノ間ニアリテ壯年者ニ多キヲ見。皮膚腺病7例ニ就イテ見ルニ各年齢ヲ通ジテ發生スルモノノ如ク、特ニアル時代ニ多發スルモノトハ思惟セラレザル如キモ、他ノ2, 3統計ト比較綜合シテ見ルニ、本症ハ幼年者ニ比較的多發ノ傾向アリテ年齢ノ増加ト共ニ漸減スル疾患ナルモノノ如シ。

次ニ Bazin 氏硬結性紅斑ハ17例中15例ハ11—40歳ノ間ニアリテ、10歳以前ニハ1例モナク、50歳以上ニテハ其ノ2例ヲ認メタリ。山川氏ハ本症75例中11—40歳ノ間ニ68例ヲ認メ、且10歳以下ニハ1例モナク、51歳以上ニハ漸ク其ノ2例ヲ認メタリ。壞疽性丘疹狀結核疹13例モ亦11—40歳ニ其ノ12例ヲ認メ、特ニ10歳未満ニ1例モナク、40歳以上ニテハ66歳ノ女ニ其ノ1例ヲ認メタルノミナリ。山川氏ハ本症126例中10歳未満51歳以上ニ1例モ認メズ。依ツテ考フルニ Bazin 氏硬結性紅斑及ビ壞疽性丘疹狀結核疹ハ10歳以前ニハ殆ド發性セザルモノノ如ク、亦50歳以上ニテモ稀ニ見ルノミニテ、兩疾患ハ特ニ11—40歳ノ間ニ多キヲ認ムルモノナリ。

顔面播種狀粟粒性狼瘡10例モ亦11—40歳ノ間ニ其ノ9例ヲ認メ、陰莖結核疹及ビ結核性結節性靜脈炎ニアリテハ比較的老年者ニモ來ルモノノ如ク壯年者ニ特ニ多キ事實ヲ認メズ。

今之等ノ疾患ニ就キ最幼年者ト最高年者トヲ對比スルニ次表ノ如シ。

次ニ之等諸疾患ノ初發年齢ニ就キ觀察スルニ75例中發病年齢記載ナキモノアリ、又其ノ殆ド總ベテハタゞ患者ノ供述ニヨルモノナルヲ以テ或ハ其ノ正鵠ヲ期シ難キモノ介在セラルルナランモ、各年代別ニ大別表示スレバ第4表ノ如シ。

第3表 最少及ビ最大年齢

病 名	最少年齢	最大年齢
尋 常 性 狼 瘡	8	50
皮 膚 疣 狀 結 核	17	42
皮 膚 腺 病	5	52
腺 病 性 苔 癬	10	22
Bazin 氏 硬 結 性 紅 斑	18	54
壞 疽 性 丘 疹 狀 結 核 疹	19	66
顔面播種狀粟粒性狼瘡	17	50
陰 莖 結 核	18	53
結核性結節性靜脈炎	17	65

第4表 初發年齡

年 齡	診 斷 性	尋常性 狼 瘡	皮膚疣 狀結核	潰瘍性 粟粒 結核	皮膚 腺病	腺病性 苔 癬	Bazin 氏硬結 性紅斑	壞疽性 丘疹狀 結核疹	顏面播 種狀粒 性狼瘡	陰 莖 結核疹	結核性 結節性 靜脈炎	計	總計
1—10	♂ ♀	1			2	1						2 2	4
11—20	♂ ♀		6 1	1	1 2	1	7	1 5	2	3	1	14 17	31
21—30	♂ ♀	2				1	5	3 1	3 3	1	2 1	10 12	22
31—40	♂ ♀						3	2	1	2		3 5	8
41—50	♂ ♀		1		2				1			1 3	4
51—60	♂ ♀						1			1		2	2
61—70	♂ ♀							1			1	1 1	2
計	♂ ♀	3	7 1	1	3 4	2 1	1 15	4 9	6 4	7	3 2	33 40	73

上表ニ就キ見ルニ皮膚結核各疾患ヲ通ジテ其ノ初發ハ11—20歳ノ間ニ最モ多ク、73例中31例即チ42.5%ニ相當ス。次イデ21—30歳ノ間ニ多ク22例(30.1%)ナリ。31—40歳ノ間ニハ大イニ減少シ8例ナリ。41—50歳及ビ1—10歳ノ間ニハ共ニ4例、51—60歳、61—70歳ノ間ニ共ニ2例ヲ認ム。

初診當時ノ年齡(第2表)ト其ノ發疹當時ノ年齡(第4表)トヲ對比スルハ各疾患ニ於ケル自覺的障礙(疼痛、瘙癢、外見、其ノ他)ノ強弱並ニ各疾患存續期間、治療ニ對スル難易ノ具合モ幾分察知セラレ面白キ事實ナルベシ。

尋常性狼瘡ハ甚ダ慢性ノ經過ヲトルモノノ如ク既ニ20年來存スルモノアリ。皮膚疣狀結核ニアリテハ8例中7例マデハ11—20歳ノ間ニ發生シ10年代ニ最モ多ク發生スルモノノ如ク、放置セルモノ多キ點ヨリ見テモ自覺的症狀ハ比較的輕微ナルモノ多キガ如シ。

皮膚腺病、腺病性苔癬ニアリテハ10歳未満ニ發生セルモノ比較的多數ナルニ反シ、Bazin氏硬結性紅斑、壞疽性丘疹狀結核疹、顏面播種狀粟粒性狼瘡等ニアリテハ、10歳未満ニ發生セルモノ1例モナシ。尙ホ之等ノ後3者ニアリテハ11—30代ニ發生セルモノ最モ多シ。

初發年齡ニ於テ其ノ最幼、最長、年齡ヲ示セバ次ノ如シ。

第5表 最少及ビ最大初發年齡

病 名	最少年齡	最大年齡
尋 常 性 狼 瘡	5	30
皮 膚 疣 狀 結 核	11	42
皮 膚 腺 病	4	47
腺 病 性 苔 癬	7	21
Bazin氏硬結性紅斑	17	52
壞疽性丘疹狀結核疹	12	61
顏面播種狀粟粒性狼瘡	17	49
陰 莖 結 核	18	51
結核性結節性靜脈炎	16	64

第 5 節 病竈發生部位

上述皮膚結核諸疾患ニ於テ其ノ病竈發生部位ニ關シ觀察スルニ、今之ヲ頭部、顔面、頸部、軀幹、肛門及ビ外陰部、上膊、前膊、手及ビ指、大腿、下腿、足及ビ趾ノ 11 部ニ大別シテ表示スレバ第 6 表ノ如シ。

第 6 表 病 竈 發 生 部 位

診 斷 部 位	尋常性 狼 瘡	皮膚疣 狀結核	潰瘍性 粟粒 結核	皮 膚 腺 病	腺病性 苔 癬	Bazin 氏硬結 性紅斑	壞疽性 丘疹狀 結核疹	顔面播 種狀粟 粒性狼 瘡	陰 莖 結核疹	結核性 關節性 靜脈炎	計
頭 部					1						1
顔 面	3			5			1	10		1	20
頸 部	1			6	2						9
軀 幹		1		3	3		2				9
肛 門 及 外 陰 部			1						7		8
上 膊				2	2		2				6
前 膊	2			1	1	5	9			1	19
手 及 指	3	3				4	6				16
大 腿	1					2	3				6
下 腿		3				15	12			4	34
足 及 趾		1				9	7				17

病竈發生部位ハ疾患ノ種類ニヨリ各々多少ノ差異アルハ勿論ナルガ、之等皮膚結核全般ヨリ見レバ、下腿ニ最モ多ク顔面、前膊、足及ビ趾、手及ビ指等之ニ次ギ、更ニ頸部、軀幹、肛門及ビ外陰部、上膊、大腿ト漸次其ノ發生數ノ減少ヲ見ル。尋常性狼瘡ニアリテハ身體ノ殆ド總テノ部位ニ其ノ發生ヲ見タルモ、其ノ最モ好發部位ハ顔面ニシテ、就中其ノ頰部、鼻部ヲ中心トシテ發生スルモノ多シ。頸部モ亦其ノ好發部位ナルガ手及ビ指、前膊、大腿其ノ他ニモ發生スルモノナリ。

皮膚疣狀結核ハ一般ニ認メラルル如ク身體露出部位、殊ニ手、指、足、趾等ハ其ノ最モ好發スル所ニシテ膝蓋關節、腕關節ニモ亦屢々發生スルモノナリ。尙ホ本症ハ隨時隨所ニ發生スルモノノ如ク臀部、肛門ノ周圍等ニモ發生ヲ見タリ。

皮膚腺病ハ頸部ニ發生シタルモノ最モ多數ニシテ、顔面之ニ次グ。尙ホ軀幹ニモ其ノ發生ヲ見タルガ顔面軀幹ニ發生セルモノハ多クハ頸部ニ近ク生ゼルモノナリ。尙ホ本症ガ頸部ニ最モ多キハ本症ガ淋巴腺腫ニ續發シテ來ルコト多キ爲メナリ。其ノ他本症ハ前膊、手、指、軀幹等ニモ稀ニ發生スルモノノ如シ。

腺病性苔癬ハ軀幹、殊ニ胸、背、腹等ニ來リ頸部、上膊ニモ發生シ、殆ド全身ニ蔓延セルモノアリ。特ニ腺病性年少者ニ來ルコト多ク淋巴腺ノ腫脹等ヲ伴ヘルモノ多シ。但シ余等ハ例少シ。

下肢殊ニ下腿ニ好發スルハ Bazin 氏硬結性紅斑ナリ。本症ハ 17 例中 15 例ニ於テ下腿ニ發生セルヲ見タルモノニシテ、即チ其ノ殆ド總テニ及ベリトイフモ不可ナキナリ。次イデ足及ビ趾ニ發生セルモノ多ク、上

肢ハ下肢ニ比シ著シク少キモノノ如シ。尙ホ本症ハ特ニ下肢、上肢ニ限リテ發生セルモノノ如ク 17 例中四肢以外ニ發生セルモノハ 1 例モ認メズ。

壞疽性丘疹狀結核疹モ亦下肢ヲ其ノ最好發部位トスルガ、本症ハ亦、前膊、殊ニ伸側モ亦其ノ最好發部位タリ。本症ハ Bazin 氏硬結性紅斑ト異リ軀幹、顔面等ノ身體各部ニモ亦發生スルコトアリ。

顔面播種狀粟粒性狼瘡 10 例ニ於テハ發疹ハ眉間、上下眼瞼、顴骨部等顔面ノ中央部ニ占居セルモノ多ク前額、耳前、髮際等ニ蔓延セルモノアリ。左右相對性ニ發生ス。

陰莖結核疹 7 例ハ龜頭又ハ其ノ附近ニ發生セルモノ多ク。尙ホ陰莖硬化症ヲ合併セル 1 例ヲ見タリ。

結核性結節性靜脈炎ハ下肢ニ最も多ク前膊顔面ニモ發生セルモノアリ。即チ身體末梢ニ於ケル淺在性靜脈ニ一致シテ發生スルモノナリ。

第 6 節 Pirquet 氏反應

皮膚結核ノ診斷ガ其ノ臨牀的所見ヲ主トシテ行ハルルハ勿論ナルガ、尙ホ補助的診斷法トシテ組織的検査、其ノ他生物學的反應行ハル。皮膚結核反應トシテ我ガ教室ニ於テ最も屢々行フモノハ Pirquet 氏反應ナリ。Pirquet 氏反應結果ノ判明セルモノ 51 例ナルガ、尙ホ多クノ患者ニ於テ本反應ハ行ハレタルモ、患者ハ唯 1 回外來ヲ訪レタルノミニテ、以後來ラザルモノアリ。其ノ他種々ノ事故ニ依リテ Pirquet 氏反應ノ結果不明ナルモノ多數存在ス。今 51 例ニ就キ、各疾患ニ就キ細別表示スレバ次ノ如シ。

第 7 表 Pirquet 氏反應

反 應	診 斷	尋常性 狼 瘡	皮膚疣 狀結核	潰瘍性 粟粒結核	皮膚腺病	Bazin 氏硬結 性紅斑	壞疽性 丘疹狀 結核疹	顔面播種 狀粟粒性 狼瘡	陰 莖 結核疹	結核性 結節性 靜脈炎	計
陽 性	強					1	2				3
	中等度		1			4	1		2		8
	弱	2	5	1	2	5	5	1	1	4	26
不完全陽性		1					1	1			3
陰 性						4	1	6			11

上表ニ示ス如ク皮膚疣狀結核 6 例ニ於テハ何レモ陽性ニ反應シ、Bazin 氏硬結性紅斑ニアリテハ 14 例中 10 例陽性ニシテ 4 例ニテハ陰性ナリ。壞疽性丘疹狀結核疹モ亦 8 例陽性ニシテ、1 例陰性、1 例ハ不完全反應ヲ呈セリ。陰莖結核疹 3 例、結核性結節性靜脈炎 4 例ハ何レモ陽性ニ反應セリ。以上ノ諸種皮膚結核ニアリテハ Pirquet 氏反應ハ診斷補助ニ用ヒテ何レモ相當效果ヲ收メタルモノナルガ、顔面播種狀粟粒性狼瘡ニアリテハ、6 例陰性、1 例不完全陽性、1 例ノミ陽性ニシテ、本症ニハ Pirquet 氏反應ハ指標タル能ハザルモノノ如シ。

第 7 節 合 併 症

皮膚結核ニ合併セル各疾患ヲ表示スレバ次ノ如シ。

第 8 表 合 併 症

病 名 合 併 症	尋常性 狼 瘡	皮膚疣 狀結核	潰瘍性 粟粒 結核	皮膚 腺病	腺病性 苔 癬	Bazin 氏硬結 性紅斑	壞疽性 丘疹結 核疹	顔面播 種性狼 瘡	陰 莖 結核疹	結核性 靜脈炎	計
Bazin 氏硬結性紅斑							4			1	5
壞疽性丘疹狀結核疹						5					5
結核性結節性靜脈炎						1					1
凍 瘡						4	3				7
頸部淋巴腺腫脹		1		3		2	2	1	1		10
頸部淋巴腺結核		2		1		2	1	1	1		8
肺 結 核	2			2		3	4			1	12
肋 膜 炎	1	2	1	1		3	2			1	11
腹 膜 炎					1						1
肋骨「カリエス」					1						1
結核性眼疾						1				1	2
結核性副睪丸炎				1						1	2
黴 毒		2		3		2	1	2	1		11
脚 氣		1					1	1			3
淋 病		1									1
淋菌性副睪丸炎		1									1
龜 頭 炎									1		1

備 考

症 狀 夏 良 冬 惡						1	3				4
症 狀 冬 良 夏 惡		1				1	2		1		5
家 族 結 核 性 患 者		1		1		2	1				5

皮膚結核ニ他ノ皮膚結核ノ併發セルモノハ Bazin 氏硬結性紅斑ト壞疽性丘疹狀結核疹ガ最多數ナリ。兩者ガ臨牀上酷似シ時ニ判別鑑定困難ナルハ既ニ前述セル所ニシテ、コノ點ニ關シテハ追テ詳細報告發表スベシ。尙ホ Bazin 氏硬結性紅斑 1 例ハ結核性結節性靜脈炎 1 例ヲ併發セリ。

皮膚結核ノ合併症ニハ結核性ノモノ最多數ニシテ就中肺結核ヲ證明セシモノ 12 例、肋膜炎 11 例、頸部淋巴腺結核 10 例アリ。其ノ他腹膜炎、肋骨「カリエス」、結核性眼疾、結核性副睪丸炎等見ラレタルガ、之等ハ比較の少數ナリ。尙ホ家族中結核性疾患々者ノ存在セルヲ云ヘルモノ 5 例アリ。非結核性合併症中ニテハ、潜伏黴毒最多數ニシテ 11 例、次ハ頸部淋巴腺腫脹ニシテ 10 例ナリ。凍瘡ハ Bazin 氏硬結性紅斑、壞疽性丘

疹狀結核疹ニ最モ屢々併發シテ7例ナリ。其ノ他少數ノ合併症モ見ラレ又季節ニヨリテ症狀ノ變化スルモノモ見ラレタルガ上表ニ示ス如シ。

III 總 括

以上述べし所ハ大正14年1月ヨリ昭和4年12月末日迄滿5箇年間に我が教室ヲ訪レタル皮膚結核患者ノ統計ニシテ、大要ヲ總括スレバ次ノ如シ。

1. 上述期間中ノ皮膚結核ハ、75例ニシテ、同期間中ニ我が教室ヲ訪レタル皮膚科患者總數10277人ニ對シ約0.729%ニ相當ス。

2. 症例數ニ關シテハ75例中 Bazin 氏硬結性紅斑最多數ニシテ17例(22.67%)ナリ。次ハ壞疽性丘疹狀結核疹13例(17.33%)ナルモ兩疾患ハ同一人ニ併發セルモノ多數ヲ認メタリ。顔面播種狀粟粒性狼瘡10例(13.33%)、皮膚疣狀結核、皮膚腺病ハ共ニ8例ニシテ10.67%ニ相當シ、陰莖結核疹7例(9.33%)、結核性結節性靜脈炎5例(6.67%)、尋常性狼瘡、腺病性苔癬ハ共ニ3例(4.0%)、潰瘍性粟粒結核1例(1.33%)ノ順ナルガ症例少キタメ確タル關係ヲ見出スニ至ラズ。他ノ2, 3ノ統計ト比較スルニ尋常性狼瘡、皮膚疣狀結核、皮膚腺病、Bazin 氏硬結性紅斑、壞疽性丘疹狀結核疹ハ皮膚結核中比較的多キ疾患ナルモノノ如シ。

3. 性別ニ關シテハ全般ヲ通ジテ觀ル時ハ75例中男子34例(45.3%)ニシテ、女子ハ41例(54.7%)ナリ。即チ女性ニハ男性ヨリモ多シ。各疾患ニ就キテハ男女ノ比ハ相異ルモノニシテ Bazin 氏硬結性紅斑ハ17例中16例ハ女性ニシテ、94.12%ヲ占メ、男性ハ僅カニ1例(5.88%)ナリ。壞疽性丘疹狀結核疹モ亦女子ニ多ク、13例中女子ハ9例(69.22%)ニシテ、男子ハ4例(30.78%)ナリ。尋常性狼瘡ハ僅ニ3例ニシテ症例少ク統計的考察ハ困難ナルモ、3例ハ全部女性ニシテ本症ハ少クトモ女性ニ多キヲ思ハシメ、他ノ統計ニヨルモ本症ハ女子ニ多シ。

男子ニ多キハ皮膚疣狀結核ニシテ、8例中7例(87.5%)ハ男性、女性ハ僅ニ1例(12.5%)ナリ。他ノ統計ニヨルモ本症ハ女性ヨリモ男性ニ多シ。又男性ニハ特有ナル陰莖結核疹アリ。其ノ他ノ皮膚結核ニアリテハ男女略ボ同數ナリ。

4. 年齡的關係ニ於テハ發病年齡ヲモ併セ考フルニ、各疾患ニヨリ多少ノ相異アルハ勿論ナルモ、全般ヲ通ジテ觀ル時ハ年齡11歳乃至40歳ニ最モ多ク、21歳ヨリ30歳ノ間ニハ特ニ多キヲ見タリ。就中 Bazin 氏硬結性紅斑、壞疽性丘疹狀結核疹ニアリテハ共ニ10歳以前ニ發生セルモノハ皆無ニシテ、40歳以上ニテ發生セルモノモ甚ダ少數ナル如シ。即チ特ニ11—40歳ノ間ニ多ク、他ノ統計ヲ比較參照スルモ亦然リ。尋常性狼瘡、皮膚疣狀結核、皮膚腺病等ニアリテハ、年齡ノ長ズルニ從ヒ漸次罹患數ノ減少ヲ見ル如キモ、而モ尙ホ各年代ヲ通ジテ其ノ發生ヲ認メ、Bazin 氏硬結性紅斑、壞疽性丘疹狀結核疹ガ10歳以前ニ其ノ發生ヲ認メザルニ反シ、皮膚腺病ノ如キハ同期間中ニモ比較的多數發生セルモノノ如シ。

5. 病竈發生部位ニ關シテモ各疾患ニヨリ多少ノ差異アルハ勿論ナルガ、皮膚結核全體ヨリ

見ル時ハ下腿ニ最も多ク發生シ、顔面、前膊、足及ビ趾、手及ビ指等ニモ多數發生ス。尋常性狼瘡ニアリテハ顔面中頰部、鼻部ヲ中心トシテ最もヨク發生セルモノノ如ク、頸部ニモ亦割合ニ多數見ラル。皮膚疣狀結核ハ膝蓋、下腿、足背、手背等ニ好發シ、皮膚腺病ハ頸部特ニ側頸部ニ最も多シ。Bazin 氏硬結性紅斑ノ發生部位ハ殆ド四肢ニ限ラレ、就中最好發部位ハ下腿ニシテ足背、前膊、手背等ニモ來ル。壞疽性丘疹狀結核疹ハ大體 Bazin 氏硬結性紅斑ト同一部位ニ發生スルモ、本症ハ前膊等ニモ比較的多數見ラレ時ニ顔面軀幹ニモ本病ノ發生ヲ見ル。

6. 皮膚結核反應トシテ最も屢々用ヒルモノハ Pirquet 氏反應ナルガ、検査數 51 例中 37 例陽性、3 例ハ不完全陽性ヲ呈シ、11 例ハ陰性ナリ。尙ホ各疾患ト本反應トノ關係ヲ見ルニ、多クノ疾患ニアリテハ、本反應ガ診斷補助ニ用ヒテ相當效果ヲ收メタルモ唯ダ顔面播種狀粟粒性狼瘡ニアリテハ 6 例陰性、1 例不完全、1 例陽性ニシテ本疾患ニハ本反應ハ效果少キヲ思ハシメタリ。

7. 合併症ハ皮膚結核相互ノ併發セルモノアリ。特ニ Bazin 氏硬結性紅斑ト壞疽性丘疹狀結核疹トハ合併セルモノ多ク、其他壞疽性丘疹狀結核疹ト結核性結節性靜脈炎ト併發セルモノアリ。尙ホ Bazin 氏硬結性紅斑ト壞疽性丘疹狀結核疹トハ凍瘡ヲ伴ヘルモノヲ比較的多數認メタリ。其ノ他淋巴腺腫脹、淋巴腺結核、肺結核、肋膜炎、副睪丸結核、肋骨「カリエス」、腹膜炎、結核性眼疾等ノ皮膚結核以外ノ結核性疾患、又ハ結核ト關係深キ疾患ノ合併、又ハ既往症ヲ多數認メタリ。

擲筆スルニアタリ終始懇篤ナル御指導ヲ賜リタル恩師皆見教授ニ深謝ス。(5. 5. 1. 受稿)

文 獻

- 1) 皮泌雜誌, 26 卷, 460 頁.
- 2) 皮泌雜誌, 19 卷, 431 頁.
- 3) 皮膚科紀要, 13 卷, 343 頁.

Kurze Inhaltsangabe.

Statistischer Überblick über die Hauttuberkulose.

Von

Ritsuo Higaki.

*Aus der Universitäts-Hautklinik in Okayama
(Vorstand : Prof. Dr. Seigo Minami).*

Eingegangen am 1. Mai 1930.

In den letzten 5 Jahren beobachtete ich 75 Fälle von Hauttuberkulose in unserer Klinik (Lupus vulgaris: 3 Fälle, Tuberculosis verrucosa cutis: 8, Tuberculosis miliaris ulcerosa: 1, Scrophuloderma: 8, Lichen scrophulosorum: 3, Erythema induratum Bazin: 17, Papulonekrotische Tuberkulide: 13, Lupus miliaris disseminatus faciei: 10, Penistuberculid: 7, Phlebitis tuberculosa nodosa: 5). Diese Zahl entspricht etwa 0.73% der Gesamtzahl aller Hautkranken. Darunter waren Männer: 33 und Frauen: 41. Die Erkrankung befällt die Individuen vom 10.—30. Lebensjahre am häufigsten, ihre Lieblingssitze sind je nach der einzelnen Krankheit verschieden.

Was die Kombination oder Komplikation anbelangt, so fand ich manchmal eine solche von einzelnen Hauttuberkulosen, z. B. Erythema induratum Bazin + Papulonekrotische Tuberkulide, ferner eine solche von tuberkulösen Erkrankungen der anderen Organe.

(Autoreferat.)

